

STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

留学レポート

夏休みを利用して、姉妹校に留学した6名の高校生のレポートを、2回に分けて紹介します。

将来の夢へ、背中を押された

111 古林 澄花

姉妹校交換留学

留学先：St. Patrick's College(オーストラリア)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27



私がこの留学を通して学んだこと、得たことはたくさんあります。

たくさんの友達、新しい二つの家族、留学先の学校の先生方、この留学の中で出会ったすべての人の話すことを理解する力が自分にはついたということ。そして自分の伝えたいことを、英語で伝えるのは難しいからこれは言わないでおこう、というふうにはならず自分の知っている限りの英語を使って相手に自分の伝えたいことのすべてを伝えることができる力。日本にいただけではこの二つのことはきっと感じる事ができなかったのではないかなと思います。

また、自分の英語に対するもっとこうしたいという向上心、自分の持っている英語力が日が経つにつれてどのくらい伸びていっているのかをしっかりと感じる事ができたのではないかなと思います。さらに、オーストラリアの文化と日本の文化の違いを自分の目で確かめられ、ものの考え方が違うのか同じなのか、自分の持っていた海外のイメージはあったのかなど、

日本を出てみないとわからないたくさんを知ることができました。これからの自分の生活をするうえでの考え方が少し変わったのではないかなと思います。

この留学に行くまではきっと日本のごはんや家族、友達が恋しくなるんだろうと思っていましたが、でも全くと言ってはうそになってしまいますが、オーストラリアでの生活に慣れてある程度のことは自分の力でできるんだということ、オーストラリアでも伝えたいことを伝えてしっかりと会話ができるんだということ、毎日ドキドキして学校に通わなくていいんだということ、オーストラリアに行くまで不安に思っていたことのすべてがそんなに心配しなくてよかったんだとわかりました。ますます海外での生活にあこがれを持ち、日本のことを恋しく思う回数は減っていきました。

それと同時に、日本の文化の素晴らしさも学びました。友達やホストファミリーに日本の文化についてたくさんのことを聞かれたとき、自分のこれまで学んできたことや知っていることをしっかりと伝えたのですが、そういったことに応えていくうちに日本の文化の面白さや、とても深い歴史があることなどに気づき、今まで何気なく学んできた日本の文化をしっかりと学びなおしたいと思いました。

将来したいこと、自分のなりたいものについてもよく考えさせられるきっかけがこの留学の中にありました。私の二番目のホストマザーとはどんなことでも本当のお母さんと話すように話をすることができ、とても良い関係を築くことができたと思います。山歩きに行ったり海沿いを二人で歩いたり、たくさん話をする機会をつくってもらい、将来の話や英語をなぜ習い始めたのかなどについて話をしました。その時にホストマザーが私にどんなふうになってほしいか、私がこのまま英語を勉強し続ければ可能性がどれだけ増えるのか、私が今望む将来の夢はどのようにすれば実現に近づけるのかなど、自分のお母さんとはなかなか話せないよう

なことまで話すことができ、本当にうれしかったです。「あなたにはいつか自分自身の目で世界を見てほしい。」そうホストマザーに言われました。私自身もしたかったことでしたが、本当にそれはできることなのか、本当に私にはそんなことをするだけの力があるのか、そんな心配があっいつかできればいいというふうにしか考えていなかったのですが、その言葉を聞いた時に背中を押された気がして、自分が将来どんな風に生きていきたいのかが少し見えた気がしました。

本当にこの留学をしてよかった、ということしか見つからないほど私にとってこの留学は本当に貴重なものになりました。またいつか機会があるならオーストラリアでお世話になった人にお礼を言いに行きたいと思います。

素晴らしい体験に感謝

P23 大橋舞妃月

姉妹校交換留学

留学先：Roong Aroon School (タイ)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27



タイに 6 週間の留学をするということは私にとって大きな挑戦でした。海外に行くことは初めてでしたので、期待もありましたが不安の方が圧倒的に多かったです。

私のホストファミリーは、ホストファーザー、ホストシスター、ホストブラザーでしたが、ホストファミリーの祖父母やいとこが隣の家に住んでいたの、毎日のように会っていました。みんなが私をあたたかく迎え入れてくれ、タイに着いたその日の夜に、ホストファミリーが「これからは本当のお父さんだと思って何でも言ってね、困ったことがあったら相談してもいいんだよ。」と言ってくれたことがとても嬉しく安心したのを覚えています。

みんな、私と話す時は英語で話してくれます

が、普段はタイ語で話しているの、何を言っているのか理解できず会話に入ることがなかなかできませんでした。あまり話さない日も少なくありませんでした。特に、学校があった日は、朝 6 時に家を出ていたの、夜は早寝する必要があり、ホストシスターとは授業が違い、会うのは昼食の頃くらいだったので会話をする時間は限られていました。また、多くの人が英語を流暢に話しており、明らかに単語量が違ったので聞き取ることに苦勞しました。さらに、7 歳のホストブラザーも私に話しかける時はいつも英語でした。簡単な英語でしたがとても驚いたと同時に、自分の英語力のなさに悔しい気持ちになりました。

私のホストシスターは日本語をいつも熱心に勉強していました。分からないことがあればすぐに調べ、私に教えてほしいと言ってきてくれ、教えたことは忘れないようにとすぐにメモをしていました。まだ少しの間しか日本語を勉強していないのにどうしてそんなに話せるのかと疑問でしたが、その理由が分かりました。そのことに私はとても刺激を受け、もっと英語を頑張る必要があると感じました。

ホストシスターに英語を教えてほしいと頼んでからは、お互い言語の教え合いをしました。教え合いをすることによって、新たな単語を知ることができたり、文法を理解できたりしましたが、自分は英語と日本語の両方の語彙力が足りていないことを実感しました。こういうことから、とてもいい影響を受けたなと思いました。

振り返ってみると、辛いこともたくさんあったように思いますが、乗り越えられたのは素敵なホストファミリーのおかげだったと思います。帰国の日、「私達のところに来てくれて幸せ。また必ず会おう。」と言ってくれました。まさか涙を流してしまうとは思っていませんでしたが、涙が出ました。

ホストファミリーは私にとって大切な存在となりました。今回の留学を通して、タイで多くの人と出会ったことや、異文化に触れるという素晴らしい体験ができたことに感謝しています。何より、ニュースやインターネットなどからの情報で外国のことを知り、その情報だけでその国のことを判断してしまうのではなく、自分自身の目で確かめられたことは私にとって貴重なことでした。また、日本の良さも知ることができました。これからは、この経験を活かして、まずは目の前にある、やるべきことを一つ一つしっかりこなし、より努力できるようにしたいです。



0000.jp - 0001041

この経験がこれからの私の強み

P13 今村 光希

姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College(オーストラリア)

期間：2016/7/16～2016/8/27



オーストラリアに行ってたくさんのお話を学び、できるようになりました。特に自分で決めたり、取り組んだりすることができるようになりました。

オーストラリアでは、Citipointe Christian College という学校の International という主にアジアからきた学生が通うクラスに通っていました。私のクラスは日本人4人、中国人8人、そして韓国人が1人いました。ですから、アジアの友達がたくさんでき、英語以外の言語を学ぶこともできました。みんな日本に興味を持っていました。特に名探偵コナンが好きなお子や俳優の佐藤健が好きなお子、日本語が話せるお子がいたことにびっくりしました。他の国に行った友達は、みんな現地のクラスに通うと聞いていたので、英語力が本当に伸びるのか、心配でしたが、いざ授業が始まると、とても楽しい雰囲気でお不安が一気に吹き飛びました。

授業は、隣の人と協力して行うことがとても多かったです。私の隣は、ずっと中国人だったので英語で話すことがメインでした。しかし、お互い完全な英語ではないので、相手の言う英語のキーワードを聞き取って理解することがほとんどでした。日本の授業でも相手と英語で話し、キーワードだけで話すことがありますが、相手に伝わらなければ、日本語で伝えることができます。しかし、それができないので授業で一番苦労しました。

授業は、英語のスキルアップをメインにしたものでした。ずっと机に向かうのではなくて、オーストラリアのことを学んでレポートを作成したり、歌を歌ったり、ゲームをしたりして、

楽しみながら学ぶことがほとんどでした。

英語の授業だけでなく、体育の授業や教会の授業が1週間に1回ずつありました。この2つの授業は、唯一メインストリームと呼ばれる現地のクラスと一緒に受ける授業でした。毎週楽しみでした。

体育の授業は、オリエンテーションや祝日の関係で6週間のうち4回しかありませんでした。Citipointe の体育は選択制だったので3週間は、バスケットボールを選択しました。しかし、なぜか毎週、先生に誘われてウォーキングで公園に行きました。バスケットボールは日本でもできますが、ウォーキングで大きな公園に行き、遊ぶことはできないのでとてもいい経験になりました。3週目には野生のコアラを見ることができました。4週目から、新しいスポーツに変わりました。私は、バスケットボールのときのウォーキングが楽しかったので、ウォーキングにしましたが、あいにくの雨で中止になりました。しかし、他のクラスの中国人のお子と仲良くなれたのでよかったです。学校の最終日、クラスのみんなから寄せ書きをもらいました。ずっと大切にしたいです。はじめは不安でしたが、International でよかったと思います。

ホストファミリーはとてもやさしい人たちでした。ホストマザー、ホストファーザーそして、4歳と1歳のホストシスターの4人家族です。たくさん日本のことや学校のことを聞いてくださいました。おかげで、たくさん会話することができました。

ホストファミリーは毎週色々な場所に連れて行ってくれました。1週目は、動物園に行きました。カンガルーやディンゴというオーストラリアの動物を見ました。2週目は、ホストファミリーの家でバーベキューをしました。オーストラリア人は、バーベキューが好きだと授業で学びましたが、ほとんどの家族がバーベキューのセットを持っていたことにとっても驚きました。3週目は、ホストファーザーとコアラを見に行きました。檻やガラスケースに入っておらず、とても間近で見ることができました。4週目は、ピクニックに行きました。オーストラリアの自然の空気がとてもきれいで気持ちよかったです。5週目は、Movie World に行きました。Warner Bros. という Harry Potter を作った会社で少し小さい遊園地のようなものでした。6週目もまた、バーベキューをしました。今回はホストファーザーのお母さんとお父さんと妹さんの夫婦としました。最後に New Zealand 対 Australia のラグビーの試合を見ました。残念ながら Australia は負けてしまいましたが、日本では見たことがなかったのでよい経験になりました。

ホストファミリーには、感謝しきれないほど

お世話になりました。最後には日本の職業インタビューにも協力してもらいました。ホストは2人で、出発直前に決まったので大変なことばかりだったと思いますが、快く迎えてくれ、そして笑顔で見送ってくれました。急に変わったので、とても不安でしたが、この家族でよかったです。ホストファミリー以外に、日本人2人が同じホストファミリーにお世話になるということも不安でしたが、お互い助け合いながら6週間で過ごすことができました。

この6週間で、英語ではListeningの力が身につく、生活面では自分のことができるようになり、そして何事にも挑戦することができるようになりました。今でも自分が海外に行き、6週間生活できていたことが信じられないです。この経験がこれからの自分の強みになると思います。この留学を支えてくれた両親、事前学習をしてくださった国際部の先生方、応援してくれた友達、先生、そして家族、一所懸命英語を教えてくださいましたCitipointeの先生方、受け入れをしてくれたホストファミリー、この留学に関わってくださった全員に感謝します。これで留学の取り組みが終わってしまうのは、寂しいですが、また機会があれば行きたいです。

ただ今留学中

カルチャーショック

I11 岩田 圭果
姉妹校留学

留学先: Grand Rapids Christian High School (アメリカ)
期間: 2016/8/5 ~ 2017/3/25

こちらに来て約2か月が経ちました。ミシガン州は北海道と同じくらいの緯度であるため、もう長袖一枚では外に出られないくらい寒いです。こちらの生活にも少し慣れてきた中で、日本と違うところがたくさん見えるようになりました。

それらは良いなあと思うことであったり嫌だなあと思うことだったりします。

こちらに来るまではアメリカ人はみんなフレンドリーだと思っていました。もちろんフレンドリーな人もいます。例えば、部活で道路を走っている時に車に乗っている人が道を譲ってくれて、その上挨拶まで笑顔でしてくれます。少なくとも私は日本で見たことがないので、とても嬉しくなります。しかし、みんながみんなそんなわけではありません。特に学校では、話しかけられたことはあまりありません。初めて学校に行く時は、意気込んでいろんな人に話しか

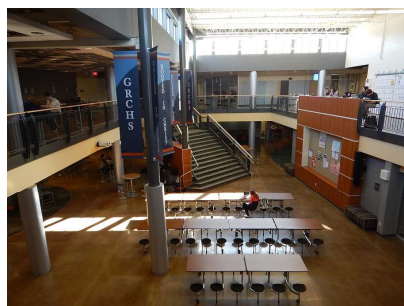
けたりしましたが、なんとなくスルーされてしまいました。

しかし、部活に参加し、また、小さなグループに入ることでだんだん挨拶する人が増えていきました。こちらに来てやはり挨拶はとても大事だな、と改めて感じています。

こちらで一番驚いたのは、学校の中が午後になると、ゴミが散らかっていたり食べかすが散乱していたりするところです。学校は基本的に放課後に清掃員の方が掃除していて、日本のように生徒が掃除するということはありません。ですから、食べ終わった後も机にあるゴミは置きっぱなしという人も見かけます。日本のように食べ物を大切に作る習慣がないからか、平気で食べ物が捨ててあったり放置してあったりします。私にとってこれは気持ちいいものではありません。

ホストファミリーの家でも、みんなが食べたあとの皿や食べ残しが4、5日放置してある、家を掃除しないなどと、カルチャーショックみたいなところはあります。しかし、自分は一つの家族の中に入れてもらっていて、これが彼らの生活であることはわかっているのでも少しずつ慣れていこうと思います。

学校では、1か月ほど前からテストの回数が増えてきました。月に1回ほど各教科テストがあり、今もア



メリカ史のテスト勉強を頑張っています。テストでは問題を理解すること、授業でやったことを覚えていること、その上で解答が書けること。この3つをすべて辞書なしでやるのがとても大変です。

平日は宿題やテスト、部活で忙しいですが、週末は穏やかです。ホストシスターのバレーボールのゲームを手伝ったり、教会に行ったりしています。私たちが通っている教会の礼拝は思っていたよりも楽しく、みんな歌を熱唱し、笑い声が絶えない時もあります。そして、その教会に通っている若い人たちの集まり、いわゆるユースグループというのが先週から始まりました。みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたりご飯を食べたりして、他の学校の人とも交流することができ、とても楽しい会になりそうです。

2か月がとても早く感じられ、一つ一つを大事にしていけないとあつという間に8か月が終わりそうです。(2016/9/29受信)